



令和3年度

学校だより

伸びよう 豊かに たくましく ~学ぶ喜びにあふれた学校をめざして~

令和3年9月1日

横浜市立高田小学校

9月号

新しい世代

校長 赤坂 桂

夏休み明けは新型コロナウイルスのさらなる感染拡大のため、臨時休校や短縮時程による学校のスタートとなりました。この夏は子供たちへの感染の広がりも心配されています。これまでも感染防止対策は行ってきましたが、9月以降もさらに気を引き締め、安全に学校生活が過ごせるよう皆で気を付けていきましょう。多くの活動が制限されることも予想されますが、ご理解いただけますようお願いいたします。

さて、この夏休みは帰省や旅行もできず、花火大会や盆踊りなどのイベントも中止となりました。また、西日本を中心に大雨による被害も発生しました。大変な事態が続いた夏ですが、明るい話題は東京オリンピックでのそれぞれの選手の輝きでした。日本の選手では、柔道、体操、水泳、野球、ソフトボールなどの種目で活躍が目立ちました。また、フェンシングなど地道な強化が実を結んだ競技や空手やサーフィンなど新しい競技でも活躍が伝えられました。

たくさんの日本の選手の活躍を見る中で、10代から20代前半の若い世代の選手が一気に成長しているように感じられました。中でも印象に残ったのはスケートボードです。メダルを獲得した西谷さんは13才、四十住さんは19才、開さんは12才です。若い世代の好奇心や挑戦する心が十分に発揮されていました。

この種目の一番特徴的だったシーンは女子パークで4位になった岡本碧優さんが着地に失敗してしまった場面です。岡本さんは2019年に国際大会を6連覇しており、金メダル候補でした。本番、最後の滑走で逆転勝利をかけて難しい技に挑戦したのですが、失敗して転倒してしまいました。悔し涙を見せて戻ってきた岡本さんを待っていたのは世界のライバルたちです。壁を上がってきた岡本さんに選手たちが次々と近寄ってきて抱擁し、肩に担ぎあげて演技を称賛していました。岡本さんも笑顔で応え、ガッツポーズを見せました。

ライバルは「蹴落として勝利を勝ち取る相手」という考え方ではなく、「より高度な技に挑戦する仲間」である、という選手たちのリスペクトを感じました。これはこの種目の特性なのか、世代の感覚なのかはわかりませんが、新しいスポーツの在り方を見せてくれました。

年令、性別、言語、文化の違いを認め合い、共に生きる世界を実現するためにスポーツは一つの具体的な場面を創り出します。こういった姿を多くの子供たちが目にすることで新しい世代の価値観が形成されていくのでしょうか。学校においても一つ一つの生活場面において人としてあるべき姿を学び、成長できるよう支えていきたいと思えます。